

竜巻安全チェックリスト

竜巻は、積乱雲の底から地上まで伸びた空気の激しく回転する柱です。竜巻の強さはF0からF5の藤田スケールで分類されます。樹の枝が折れたり、根の浅い樹が傾くなどの被害（F0）から、頑丈な建物が吹き飛ばされるなどの壊滅的な被害（F5）まで広範囲にわたります。わが国では、F3までの強さの竜巻が確認されていますが、F3の竜巻であっても、家をばらばらにし、車を持ち上げ、樹木を根こそぎにして、危険な飛散物を発生させます。竜巻の発生は予想が難しく、移動速度が速いので、危険を感じたら迅速な避難や対応行動が必要です。

日ごろの準備

- 屋内の『安全な場所』をあらかじめ決めておく。『安全な場所』となるのは、屋外に面した窓のない最も低い階の部屋で、浴室やトイレ、クローゼット、押入、納戸のような小さい部屋や場所。
- 災害用品と貴重品を入れたリュックサックを準備し、『安全な場所』に持ち込めるようにする。
- 弱っている樹木の枝を切り取っておく。
- 自治体の警報サイレン音を確認しておく。
- 気象庁が発表する竜巻注意情報に注意する。
- 電話線の断線により固定電話が不通になることが多い。携帯電話や他の通信手段を準備する。

天候に普段とは異なる状況を感じたとき、または、強風に関する注意報が発令されたとき

- 竜巻の兆候に注意。竜巻の兆候とは、風向に異変を感じる突風、暗い、壁状の雲、雷鳴、雷光。
- 雨戸やシャッターがあれば閉め、室内ではカーテンを閉める。
- 屋外に置いている園芸用品や遊具など飛散物になる可能性のあるものは家の中に収納する。



2004年10月24日北海道門別町の竜巻
(株)丸佐楠工業 山本英治氏提供

竜巻が迫ってきたとき、または、竜巻が発生する兆候を確認したとき

- 危険な竜巻の接近(⇒漏斗状の雲、大きい^{ひょう}雹、^ほ吼えるような騒音)を疑い、危険回避行動を。
- 屋内にいる場合は、最も『安全な場所』に移動して窓に近づかない。
- 屋外にいる場合は、飛来物や強い風による影響を避けるために、できるだけ早く近くの頑丈な建物に避難する。
- 自動車運転中に車で逃げることができず、かつ、近くの頑丈な建物内へも避難できない場合は、自動車を路肩に止め、頭を窓の下に下げ、手で頭を覆う。

竜巻の通過後にすること

- 引き続き、気象情報に注意し、竜巻注意情報が解除されるまで『安全な場所』から離れない。停電することが多いため、情報収集はテレビよりもラジオを用いる方が良い。
- 被害が発生している場合には、消防や警察、自治体などに被害状況を連絡する。
- 部屋の被害を調べるときには、ガラスの破片などでケガをしないように、軍手、長ズボン、長袖のシャツを身に着け、屋内であっても頑丈な靴をはく。
- 垂れ下がった電線には近寄らず、電力会社に電話する。
- ガスの匂いを感じる、シューという音が聞こえる、などの場合は、窓を開け、全員、建物の外に避難する。すぐにガス会社か消防署に電話をする。
- 保険請求のために、被害を受けた建物と家財の両方の写真を撮影しておく。
- 停電した場合は、火災の恐れがあるためロウソクを用いず、壊中電灯を用いることが望ましい。
- 飼っている動物については、日常よりもしっかりと管理下に置く。

竜巻と台風

竜巻と台風は異なる気象現象ですが、台風の接近に伴って竜巻が発生することがあります。台風の目に向かって移動する空気が積乱雲を作り、竜巻を生むと考えられています。台風の中心から数百 km 離れた場所での竜巻発生報告が多数ありますので、台風が遠くにあるからと言って安心はできません。竜巻の兆候に注意してください。